

高速道路を活用した地方創生等に関するプロジェクト連携について



小城市まち・ひと・しごと創生総合戦略

平成26年11月 国「まち・ひと・しごと創生法」の施行

地方のまちの魅力向上させ、若者の希望に沿った生活ができる環境を整え、地方から活力を取り戻すための取り組みを戦略的に実施する



平成27年12月 小城市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定

国の示す「まち・ひと・しごと総合戦略」の基本的な考え方や方向性を踏襲しつつ、地域の実情に応じた人口減少・少子高齢化を克服することを目的とする

基本目標

I 「しごとができる小 City づくり」
～安心して働けるようにする～

II 「ひとを呼ぶ小 City づくり」
～新しい人の流れをつくる～

III 「“子は宝”を育む小 City づくり」
～若い世代の結婚・出産・子育ての
希望をかなえる～

IV 「地域資源を磨く小 City づくり」
～時代に合った地域をつくり
安心な暮らしを守る～

〔施策の方向性〕

- ◆ 地域経済の育成・支援
- ◆ 小城市の特色を生かした農水産業の振興
- ◆ 交流人口の増加を目指して
- ◆ 学生や若者・子育て世代が住む「魅力的で活力ある小城市
- ◆ 結婚・出産や子育てに希望を持てる社会の実現
- ◆ 小城市で教育を受けたい学校教育の充実
- ◆ 地域に誇りをもち「住み続けたい」と思えるまちづくりの推進
- ◆ つながり支えあう地域の絆づくりの推進

小城市の課題

商業においては店舗数が10年間で約35%減少しており、観光客も6年間で約20%減少している。商業・観光分野において年々衰退がみられている。
観光の移動手段が約90%以上が車であり、車を軸にした魅力あるまちづくりを行い地域の活力を取り戻す必要がある。

商業

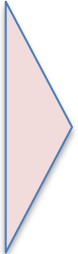
- 第3次産業の就業人口比率は65.6%
- 年間販売額は約580億円（H26）
- 年間販売額はH26までの10年間で▲15%
- 商店数がH26までの10年間で▲35%
- 従業員数がH26までの10年間で▲27%



地域資源を活かした
商業の活性化

観光

- 入込観光は45万人（H26）
- H26までの6年間で▲10万人（▲20%）
⇒97%が日帰り客
- 移動手段は車（自家用車、バス）が90%超



車を軸にした動線づ
くり、魅力ある拠点づ
くり

小城スマートICを活用した地域づくり

小城スマートIC開通（H30.3.31）をきっかけに、高速道路を活用した魅力ある動線づくりと拠点づくり、それを活かした「豊かで活力ある地域づくり」に向けて取り組む

→ 送客から拠点づくりまでを市民と共創する仕組みづくり

- 新設された小城スマートICは、日平均交通量が約900台で利用されており、開通以降徐々に増加している。更に認知度が上がれば利用者が伸びるポテンシャルがある
- FDCとの連携により福岡都市圏から小城市への送客を行い、車を軸にした動線づくり、地域資源を活かした商業や観光を提供する
- 個性ある地域や小さな拠点を道路ネットワークでつなぐことで、広域的な経済・生活圏の形成を促進する

